



根張りをよくする透水源

- 排水性をよくし通気性が向上する
- 酸欠を防ぎ根ぐさを予防する
- 根の活力向上で生育を促進する

こうすれば夏の暑さによる生育不良は避けられる 肥料の選び方・使い方

夏の暑さにより起きる生育不良の原因と問題点

「暑さ対策は日除けを厳重に」

ここに直結しがちですがこれでは問題が起こります。

「日除け＝日照不足」 日照不足は光合成が不足し生育不良の原因となります。

さらに肥料を吸う力や消化する力が弱くなり、「吸い切れなかった肥料が培養土に」、「消化しきれなかった肥料が茎葉」に残ってしまいます。

「しおれてかわいそうだから」遮光ネットを二重に張ったという話がありますが、秋にネットを外したら、一気に葉が黒く

なりスルメを焼いたように葉が巻いてしまった事例があります。

こんなに極端な例はあまり多くはないと思いますが、これに類することは日常発生しているわけです。

遮光ネットは必要以上に遮光率の高いものは使用しない、葉焼けなど問題の発生しない最低限の遮光率のものを選ぶ必要があります。

遮光ネットはその代償に日照が不足し光合成が低下することを考える必要があります。

何が起きるか、その問題点を考える

肥料に関する問題点は与え過ぎと、成分無視のチッ素にかたよった肥料の与え方です。

近年の夏の暑さは厳しさを増すばかりです。

しかし「暑さ対策用の肥料」などありません。どのように使用するか「選び方と使い方」を考える必要があります。

根の活力低下」が原因となる場合が多い。

根の障害は肥料の与え過ぎ以外に培養土の酸欠によって発生します。

化学肥料を使い過ぎると培養土の荒廃化をまねき、土が固くしまり、空気の流通を阻害し酸欠の状態を作り出してしまいます。

これは肥料の選び方と適切な水管理で解決できます。遮光ネットの使用は日照を制限することで温度を下げることです。

しかし日照が不足した分、光合成が低下し、生育が悪くなるとともに、利用しきれなかった肥料が残ることになります。

よって日照が不足した分、光合成を補う工夫が必要となります。

これらの問題は肥料の選び方、使い方等々見直すことで大幅に減らすことができるものと考えます。



夏の暑さで起きる問題点

1. 根ぐされ、根いたみ、根の活力低下です。
2. 肥料残り、チッ素過剰症が起きやすい。
3. 遮光ネット使用による光合成不足が起きる。
4. 鉢土の温度上昇

その根底には「鉢土（気温）が高温になる」と「肥料の与え過ぎ」があります。鉢土の温度は外気温プラス5～10度くらいになり45度を超えることもめずらしくありません。

また、これ以外にも突然発生する「葉のフチの枯れ込み」があります。

原因は気温の上昇によりチッ素分が急に溶けだし、このチッ素を急激に吸った為です。

いずれも肥料が関連して発生いたします。

これらの問題は「肥料の選び方、使い方」を工夫し適正化することで解決できます。

肥料残りやチッ素過剰症は「根ぐされ、根いたみ、